

「我が校の教育」特色ある活動紹介

市内の小中学校 全30校を毎月紹介します

第12回

郡上市立 吉田小学校
郡上市立 明宝小学校

吉田小学校

吉田小学校では「進んでやりぬく子」よく考える子 ①んぼう強く取り組む子 ②れとでも仲良くする子」を学校の教育目標とし、少人数のメリットを生かし、全教育活動を通して一人ひとりの児童を大切にした教育を推進しています。

◎合言葉は「みんなだいじ」

本校では、この合言葉のもと、どの児童も自己有用感や所属感をもてるよう、様々な取組を展開しています。

◎所属感を高める「チーム遊び」

チームごとに遊びを計画し、運営していきます。ドッジボール・鬼ごっこなど、チームの中で、その都度ある学年が中心になり遊びを進めていくといった取組があります。

◎心のこもった「あいさつ」

「感謝の言葉」の取組

児童委員会が中心となり、気持ちのよい挨拶や感謝が感じられる言葉遣いを広げる運動を進めています。良い事例はお昼の放送で紹介されます。

◎相手がほっとする「あったか言葉」の取組

児童たちの言動に常に気を配り、相手のことを思いやった言動があれば紹介します。児童委員会でもキャンペーン活動を行い、全校に広めていきます。

◎ふるさと学習の推進

「ふるさと郡上、ふるさと美並」を意識し、将来にわたってふるさとを大切にできる人に育ってほしいという願いから、地域の人材・教材を積極的に活用しています。例としては、森林組合の方をお招きして森林学習をしたり、学校の横を流れる谷川で「カワゲラウォッチング」をしたりして、



◎縄跳びで体力向上を

休み時間になると、縄跳びカードと跳び縄を持って運動場へ行き、より高度な技を目指して練習に励む児童の姿が見られます。昨年の学習発表会では、6

年生が音楽に合わせて様々な跳び方を披露してくれました。その姿に他の学年の児童は強い影響を受けました。「自分も跳んでみたい。できるようになりたい。」という願いが、今児童たちを動かしているのです。今後のスキル・体力アップが期待できます。



吉田小学校長 吉田広行

明宝小学校

◎喜ばせる学校、自分を、まわりを、地域を、

「みなさん、おはようございます。今日も自分やまわりを喜ばせることができますようにがんばりましょう」本校の1日は、放送委員のこの言葉で始まりです。子どもたちは、授業や係活動などの日常生活、運動会や学習発表会などの全校行事、修学旅行、宿泊研修、社会見学などの学年行事で、どうすれば自分やまわりや地域を喜ばせることができるのかを具体的に考え、

全員でそれをめざして生活しています。こうした取組を重ねていくうちに、子どもたちは次のことに気づいてきました。
自分を喜ばせることは、まわりや地域も喜ばせることになる。まわりや地域を喜ばせることは、実は自分も喜ばせている。

今年度の運動会（春開催）のスローガンも、
「全力 協力 最後まで」と声と動きで喜ばせよう」と決まり、それを達成しようとする日々練習に励んでいます。きつと、当日は、みんなを喜ばせてくれると期待しています。



◎明宝小防災の日

昭和44年9月9日、明宝（旧明方村）を震源とする大地震（美濃中部地震）が発生し、明宝は大きな被害を受けました。この災害で得た教訓を生かし、災害が起きたときに命を守ることができるよう、毎月9日を「明宝小防災の日」と定め、大雨・洪水など、あらゆる災害を想定

した防災指導を行っています。3月には、東日本大震災の日と重ね、外部から講師を招き、命を守るために、防災・減災がいかに重要かを確認しています。昨年度は、東日本大震災のとき、派遣職員として宮城県で勤務した市役所職員の山下修司さんに、被災地での体験をお話をしていただきました。子どもたちは、地震や津波の恐ろしさを知り、「災害が起きたらどうするか」、「自分にできることは何か」など真剣に考えることができました。



6年生の一人が「災害のときに自分の命を守って、みんなを喜ばせる行動をしたいな」とつぶやきました。今日も下校の放送が流れます。「みなさん、今日も、自分やまわりを喜ばせることができましたか。明日も元気に登校しましょう」

明宝小学校長 斉藤裕子